

# 平成23年 教育委員会第6回定例会 秘密会 会議録

日時 平成23年4月12日(火) 午後4時18分～午後4時45分  
場所 教育委員会室

## 議事日程

### 第2 報告

#### 【子ども総務課】

(1) 子ども・教育部組織目標管理シート【政策形成過程終了につき、公開】

#### 出席委員 (4名)

教育委員長	市川 正
教育委員長職務代理者	中川 典子
教育委員	古川 紀子
教育長	山崎 芳明

#### 出席職員 (8名)

子ども・教育部長	高山 三郎
次世代育成担当部長	保科 彰吾
子ども総務課長事務取扱 子ども・教育部参事	高橋 誠一郎
子ども施設課長	佐藤 尚久
子ども支援課長	依田 昭夫
児童・家庭支援センター所長	山下 律子
学務課長	平井 秀明
指導課長	坂 光司

#### 欠席職員 (1名)

参事(子ども健康担当)	清古 愛弓
-------------	-------

#### 書記 (2名)

総務係長	小宮 三雄
総務係員	成畑 晴代

日程第2 報告

子ども総務課長

(1) 子ども・教育部組織目標管理シート

市川委員長 | それでは、先ほど日程の最後にいたしました、子ども総務課の担当する子

ども・教育部の組織目標管理シートの議事に入りますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、組織目標管理シート、これは毎年ご説明申し上げておりますけれども、毎年毎年、各部での組織目標に基づいて、どのような事項で事務事業を行い達成したか、あるいは達成するためにどういうことをやっているかということについて、実は近々に庁内全体で、区長を交えまして、全体の会議の中で確認、調整した後、公表することになっております。

本日は、その会議の前の事項について、大筋このような内容で22年度のレビューといたしますか評価をし、また、23年度事業について、組織としての考え方、方針をお伝えします。これがすべて、これで決定ということではないのですが、大筋こういう内容で、ご説明、ご報告しますので、あらかじめ委員の皆様方には承知していただきたいと、そういうことで報告するものでございますので、ごくごく簡単に説明させていただきたいと思えます。

まず、22年度の評価といたしますか22年度の目標管理シートについて、ごらんいただければと思います。

これは、22年度は、部の組織目標につきましては、「ともに育ち、ともに育む「共育」の理念のもと、子どもたちが健やかに育ち、学び、親も安心とゆとりを持って子育てを楽しむことのできる地域社会づくりを目指します」という、部全体の組織目標がありまして、それにぶら下がる事業が16事業あったと。それぞれの事項について、各所管課のほうでどういった評価をしたかということを書いたものでございます。一番左側が事項名、22年度中の取り組みについて記載してございます。そして、22年度の実績を一番右側の欄に記載しておりまして、一部達成なのか、あるいは未達なのか、そして、完了したのか、継続していくのか、そういった判定を、それぞれの事業について、したところでございます。ただ、達成という表現が非常に幅広くございまして、達成といいながら、それで、これで良いんだということじゃなくて、予定、予定どおり終わったものも達成という、そういう表現も、例えば11番、麴町中学校及び九段中等教育学校の整備というのが、この評価は達成となっておりますが、これは予定どおり進捗しておるので達成と。引き続きこの事業は継続だというようなものもございますので、一般的な達成というよりも、この予定に対しての達成というような理解もいただくところがございます。

また、ちょっと戻りますけれども、保育園待機児童対策については、一部達成、3番目の学童クラブ、待機児童ゼロ対策、これは達成となっております。これは保育園の待機児童対策もゼロにしたんですけども、なかなか、限りなくゼロに近づきましたけれども、そこまでいかなかったと。また、学童クラブの待機児童ゼロ対策につきましては、予定の定員よりもさらに児童を受け入れて、待機児童というのが発生しなかったと。これはもう目標達成できたと。そういう表記でございます。個別の説明は後

でござんいただければと思いますが、そういう形でそれぞれのこの事業に対しての評価をしたところでございます。

あと、特に、当教育委員会についても1つ事項がありますので、14番でございませう。ござんいただければと思いますが、これはまさに教育委員さんが教育委員会活動の中で、ご自身で体験されたかと思うんですが、教育委員会というこういう会議の場だけではなくて、いろんな媒体あるいは場面で、いろいろな形で、皆様方の活動についてオープンにし、教育委員さん自らが現場に行っていたら、それぞれ、直接の交流等を通じて意見交換その他をしていただきながら、委員会活動が活性化してきたと。それはまさにそのとおりだと思いますし、今後も続けていくべきであるということもありますので、ひとつ、その、私ども所管としては達成していると。なおかつ、これは続けていかなきゃならないというような評価でございませう。また、指導課のほうの視点からいきますと、特色ある教育活動について各学校が自主計画をつくるところでございませうが、その審査に教育委員さんに参画していただきまして、特色ある学校づくりに積極的にかかわっていたらという、そういう実績がございませう。

そういういろんな教育の場面でも、教育委員さんがかかわっていただき、これも活動が非常に活性化してきた。そういったことのレビューが14番の評価というような表記を、これから全庁的な作業の中で報告する予定でございませう。

続きまして平成23年度の予定でございませう。こちら、部の組織目標、昨年度と表現はちょっと変えましたが、目標とするところは、ほとんど同じでございませう。「地域・家庭・学校(園)が子どもを共に育て、自らも育つ「共育」の理念のもと、子どもたちが健やかに育ち学び、親も安心とゆとりを持って子育てを楽しむことのできる地域社会づくりをめざします」。こちらが当部の組織目標でございませう。その目標を実現するために、18の事業を選択したものでございませう。その中で、やはり、教育委員会活動の活性化でありますとか、例えば就学前教育の推進でどういうメニューをしていくかとか、おめくりいただきまして、在来中学校における学力向上にどういったことをするか、それはいつまでにどういったことをやっていくか、そして、それを実行するための予算事業についても、この表の、やや左寄りですけれども、真ん中のあたりに、それぞれの予算の事業名を書いたところでございませう。いつまでに何をやっていくか。それで、やっていく上での懸案事項ですとか課題というのはどういったことがあるか。そして、本年度以降の取り組みでどういったことがあるかという見通し、こういったことを期待してあるものでございませうして、こういった内容で、これから庁内会議に臨むのですが、その全体の議論の中で若干の修正があろうかと思ひます。これが決まりましたら、また改めましてご報告もしたいと思ひますが、おおよそその内容をすべてオープンな形で、千代田区は組織目標についてはオープンにします。オープンにする時期は、

おおよそ、そうですね、6月の上旬ぐらいにはすべて広報媒体、あるいはホームページでアップされます。そのときに、本日この会議の位置づけは秘密会でございますが、私の説明した内容が公開になる、そういうスケジュールとっております。

私からの報告は以上です。

中川委員

資料が裏表になっているけど、これ、裏が18番までで、事前に送っていただいた資料は24番まであるんですけど。

子ども総務課長

すみません。それぐらい、流動的なんです。

子ども・教育部長

レビューを今、部内で調整をいたしまして、余り多過ぎても目標がばらばらになってしまうということから、昨年に比較的同じような事業項目、目標とする事業項目を決めまして、現在のところ18に絞り込んで、これを今日また、この会議、委員会が終わった後に内部でたたきまして、また明日、庁内で議論するというふうなことになります。まだ過程でございますが、大変申しわけございませんが、改めてまたご報告いたします。

市川委員長

ということのようですが。

中川委員

そうですか。ただし、これだけ見せていただいて、次にたたき台をこういうふうに直しましたから了承してくださいというふうにもしおっしゃるとしたら、ちょっと私たちはわからないことがいっぱいあり過ぎるような気がするんですけども。事前資料のほうで、いろいろちょっとわからないところをチェックしてきたんですが、13番の子育てサポート事業の拡充ということで、「子育て・支援養成講座(2級・3級)に加え、新たに家庭的保育事業に対応できる講座を提供する」というんですけど、どんな講座を提供するのかという、具体的なことや何かが私たちもわからないなというのがありますし、他の疑問点を先に言います。

旧のほうで言いますと、17番に「個性を伸ばし、生きる力を育む教育の推進」というのがありますが、その中に、「国の35人学級と都の動向及び児童・生徒数推計の把握を行うとともに、区域外就学の受け入れ規模を慎重に検討する必要がある」とあるんですけど、どういうふうに慎重に検討するのかというのもわからないし、それから、19番の「子育てを育む環境の整備」のところで、ごめんなさい、これはちょっと言葉がわからなかったんですけども、初度調弁というのは何なんでしょう。

それから、21番の発達「九段中等教育学校については22年度調査研究を踏まえ発達支援の推進を図ります」ということですが、調査研究の結果というのは、まだ私たちは伺っていないと思うんですけども。

市川委員長

そうですね。

中川委員

それと、そのところで報告を伺っていないので、どういうふうに今後していくかというのが、ちょっと具体的にわからないなと思います。

それとあと、24番のスクールライフサポーターですけども、これも既に募集はしていると思いますけども、どのくらい来ていて、応募してきた人に対して、どのような講座を開いて、サポーターとしての心構えをやるう

としていらっしゃるのか、その辺もちょっと、わからないなと思いました。

市川委員長 随分除外したところが、今のご質問で多いような気がするんですけどね。

子ども総務課長 それでは、各課長から説明いたします。

児童・家庭支援センター所長 それでは、最初にご質問のありました、千代田子育てサポート事業の拡充についてご説明します。

22年度の組織目標の1番のところにありますように、22年度については、3級支援者講座というものと2級支援者養成講座というのを行ってまして、これが一時預かり保育をやっていただくためにこの講座をやっていっているんですけども、今回、新たに23年度拡充したいと考えているのが、保育園の待機児童が発生してしまうということもありますので、保育ママというものを育成したいというふうに考えております。それで、具体的には、今現在行っている2級の講座にプラスアルファすることによって保育ママを育成することができますので、その育成した後にはどういった活動をするということまではまだ決まっていますが、そういったことを目標に養成講座を実施したいと思います。

子ども総務課長 次は35人学級。

学務課長 学務課の35人学級につきましては、先ほども言いましたように東京都で、今年度については、実施しないということで、こちらについては、準備というような形でひとつ進めていきたいというふうに思っております。

子ども・教育部長 それから、初度調弁という言葉は……

学務課長 これ、項目を落としたじゃない。落としたところも説明してください。

子ども・教育部長 ええ。落としたということは、先ほども言いましたように、35人学級につきましては、東京都のほうでまだ今年度は実施しないということなので落としました。

子ども・教育部長 今年度は落としたということです。

学務課長 それから、初度調弁という言葉なんですけど、これは麹町中学が改築されますので、初めての年に、いろいろと備品とかそういったものを購入する、それを初度調弁と言っております。

子ども・教育部長 これは組織目標としては、ちょっと小さ過ぎるね。

学務課長 ということで、落としております。

中川委員 わかりました。

指導課長 それでは、21番の発達支援・特別支援教育の推進の部分のうち、九段中等の調査・研究に基づく支援方法の検討等にかかわるご質問ですが、本委員会の懇談の席上で、こんなような方向性で調査・研究を進めてまいりますという報告を一度させていただいたと思います。内容としては計画通りのペースで進んでおるんですけど、最終の詰めの段階で震災が発生しまして、最後の会が開催できずしております。委員の方々は3月末の期間限定でお役目を担っていただいておりますので、調査までまとまっておりますか

ら、その結果分析について、今度は書面で委員の皆様にご案内し、文書等でご意見をちょうだいして集約していく予定です。また、保護者代表からのヒアリングという部分もあわせて中断しておりまして、今後、ゴールデンウィークをまたぐと思えますけれども、その間の中で整理してまいりたいと考えています。その後、こちらの委員会にも報告をさせていただければと思っております。

具体的には、今回の校舎改修で、カウンセリングルームですとかプレールームの充実あるいはスクールカウンセラーの重点配置などが提案の1つになっておりましたけれども、これらの点を具体的にどういうふうに動かすかという提言を含めてまとめていければと、座長とも協議しているところでございます。

それから、24番の項目に関しまして、スクールライフサポーターに係るご質問ですが、先週末、第一次の募集を締め切ったところで、23名の方の応募がございました。年齢層としてはかなり幅が広く、さまざまご経験、キャリアをお持ちの方に応募していただいたところですが、現在、書類の点検、それから、論文の内容を見させていただいているところですが、来週、面接をさせていただいて、配置人数を所定の予算規模の人数に絞りたいとも考えています。また、研修については、公務員ではありませんが、準公務員的な形で学校に入り、子どもたちと直接かかわりますので、教員としての服務規程に関する部分ですとか、あるいは、子どもの発達に関すること、児童心理に関することなど、研修会を予定しております。講師については、現在、調整中であります。

説明は以上でございます。

市川委員長  
子ども・教育部長

よろしゅうございますか。

中途な形で、ちょっと変な形で出しちゃったもので、かえって皆さんにご迷惑をかけましたが、もう少し整理してからご報告すべきだったかと思えます。このような形で送付して、混乱させて、申しわけありません。

中川委員  
市川委員長  
中川委員  
市川委員長  
子ども・教育部長  
中川委員

いえ。別に混乱ではなくて……

事前資料にあったものが内容にないんでね。

ということだけです。

勉強してきていただきました。

また改めて、まとまりましたら、詳細にも報告をさせていただきます。

でも、やっぱり、そういう形成過程に、やっぱり私たちが何かあれば、それは反映しないと、まずいわけですよ。そうじゃないと、意味がない。

市川委員長  
中川委員  
市川委員長  
中川委員  
市川委員長

ちょっと、おっしゃっている意味がよくつかめないんですが。

私たちが思ったことも言わせていただかないといけませんよね。

それはそうですよね。

完璧にできちゃったならば、言えないわけですから。

それはそうです、当然。

中川委員  
市川委員長

途中教えてくださるのは、必要なことだと思います。

ほかによろしいですか。

私から2点ばかり聞きたいんですけども、落ちた中にあるんでしょうけれども、特色がある学校づくりで、この前、たしか、報告では、大体こんな項目が決まりましたという報告を聞いて、ただ、予算に若干ゆとりがあるので、何か、これはやってみたらどうかということがあればという話を指導課長から報告があったと思うんですが。これはまあ、教育長さんを中心にして相談していただきたいんですけども、前から言っている、「千代田区賞」「千代田ジュニア文化賞」みたいなものがもしできるものなら、それは、ちょっと予算が違うと言われればそうなんだけれども、そういうのを考えてもらえないかと。それとの関連で、23年度のものには出ていないんですけども、24年度ぐらいから予算をとってやってもらいたいというふうに要望を出しておいたので、何か報告する際には、この書面に載っている具体案は良いんですが、ぜひそれはやってほしい。

あんまり、反対する理由はないと思うんですよね。もっともお金がないという反対が一番でかいんですけども。ただ、そんなにお金をかけなくてもよろしいんで。何か、特色ある学校づくりの活動に、何というのかな、力があつた学校なり学級なり個人なり、そういったものを少し取り上げて顕彰できるような、来年度の話になるんでしょうけれども。というようなことを考えてもらえれば良いなというふうに思いますね。

ほかにかがでしょうか。どうぞ。

中川委員

特色のある学校づくりの案がいろいろ出ていましたけど、あの中で、単発的にやるんじゃなくて、継続的にやったほうが効果があるんじゃないかなと思うのが幾つかあるんですね。例えば、手話の勉強なんていうのは、2回ぐらいで完結していたみたいなんですけど、手話は2回ではマスターできないので、継続してやったほうが生かせると思うので、そうしたものは、回数をもうちょっと増やしましょうとかいうのがあってもいいんじゃないかなと思いました。

市川委員長  
学務課長  
市川委員長

あれは2回でしたっけ、手話の。

はい。計画案としては2回です。

できるものならね、今、中川委員がおっしゃったように、もうちょっと期間が長くないと、手話ってこんなもんだという入り口に入っておしまいみたいなことになっちゃうからね。良いアイデアなんでね。

学務課長

音楽の授業で、低学年なんですけれども、手話を使いながら合唱するという取り組みなども今やっているんですね。ですから、福祉？教育とか手話の勉強という、きゅっと焦点を絞ったものではないんですけども、音楽の教科の中でそういったものも理解してみようと。そういう地盤がありますので、発展させることは可能かなと思います。

市川委員長  
学務課長

そうですね。

ただ、いかんせん、時間数が限られているもので、ちょっと校長先生方

市川委員長 | と相談してみます。

市川委員長 | ええ。

市川委員長 | ほかにいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

市川委員長 | (「なし」の声あり)

市川委員長 | それでは、特になければ、本日の教育委員会定例会はこれで終了させていただきます。